

「名古屋工業大学 セラミックス基盤工学研究センター年報 論文投稿規則」

1. 投稿資格

投稿資格は、名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センター職員または職員が共同執筆者であることを条件とする。ただし、編集委員会による原稿依頼の場合はこの限りではない。

論文は研究課題に関するものとする。

2. 報文の種類

報文の種類は、(1) 学術論文（原著に限る。）、(2) 解説論文、(3) 総説論文、(4) 技術報告とする。

3. 報文の構成

報文の構成等はそれぞれの分野の慣例に従うものとする。

4. 原稿の書き方

論文執筆要領については別に定める。

5. ページ数の制限

以下のページ数はすべて刷り上がりものを示す。ただし、編集委員会で認められた場合にはこの限りではない。

論 文 原則として 10 ページ以内

解 説 原則として 10 ページ以内

総 説 原則として 10 ページ以内

6. 提出先

原稿の提出先は名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センター編集委員会委員長とする。そこで受理した日を原稿受付日とする。

7. 提出期限

毎年度 1 月 31 日とする。

8. 採否

投稿原稿はすべて名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センター年報編集委員会で審議する。ただし、学術論文は、名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センター年報編集委員会が委嘱する査読者 2 名の審査を受ける。査読者の意見に基づき、学術論文の採否を編集委員会で決定する。編集委員会における採択決定日を受理日とする。解説論文、総説論文、技術報告に関しては、編集委員会の校閲を受けた後、編集委員会で掲載決定する。編集委員会における採択決定日を受理日とする。

9. 原稿の責任と権利

掲載された論文等の内容についての責任は著者が負うものとする。また、その著者権は著者に属する。編集著作権は名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センターに属する。

編集後記

本研究センターは2001年にセラミックス基盤工学研究センターとして、時限10年の省令設置で改組され、2010年度で節目の10年を迎えました。このあいだ、2004年に国立大学が法人化される大きな出来事があり、それに伴い、省令設置や時限は廃止されましたが、2009年には外部評価を率先して行い、自主的な改組を計画しているところです。この10年の間にさらに、大学の組織編成で、「しくみ」、「つくり」、「おもひ」、「ながれ」と呼ばれる4つの領域ができ、教員はいずれかの領域に所属することになったり、さらに、大学院に未来材料創成工学専攻が新たにできて、本研究センターの教員は、物質工学専攻から所属を移ったりとめまぐるしい動きがありました。また、1昨年の耐震補強工事による一時的な引っ越しを契機に、多治見の旭ヶ丘地区の他に多治見駅近くのクリスタルプラザビル内にキャンパスを設けるなど発展的な変化もありました。日頃、時の流れの慌ただしさ、早さを感じておりますが、この10年を振り返ったとき、実に様々な出来事を通過してきた、というのが実感です。

そのようなめまぐるしい動きのなか、定期的に毎年、活動年報を出版し続け、本年度も多くの著者や事務員による編集作業のおかげで発行に至りました。みなさんに感謝いたします。

また、2007年度からこの年報の出版費用について広告掲載費による充当を行っており、国内の景気の厳しさにもかかわらず、本年度もいくつかの企業が広告を掲載していただきました。この場を借りて、心より感謝いたします。

年報に掲載している内容で、本研究センター活動について知っていただき、今後ともご支援いただければ幸いです。

編集委員

石澤伸夫 太田敏孝 小澤正邦 藤 正督
井田 隆 安達信泰 羽田政明

アドバイザーボード (Advisory Board)

客員教授 半澤 茂 (日本ガイシ株式会社)
客員教授 泉 富士夫 (NIMS)

名古屋工業大学 セラミックス基盤工学研究センター年報 Vol. 10

平成23年3月31日発行

責任編集者 安達信泰 (名古屋工業大学セラミックス
基盤工学研究センター)

発行所 名古屋工業大学
セラミックス基盤工学研究センター
〒507-0071 多治見市旭ヶ丘10-6-29
電話 (0572) 27-6811 FAX (0572) 27-6812
URL <http://www.crl.nitech.ac.jp/>

印刷所 株式会社コームラ
〒501-2517 岐阜市三輪ぷりんとびあ3
電話 (058) 229-5858
